

化学物質等安全データシート

1 化学物質等及び会社情報

会社名 ケミックス株式会社
住所 東京都豊島区池袋2丁目51-14
飛翔ビル6F
担当部門 製品管理部
電話番号 03-5950-9970 Fax番号03-5950-3342
作成・改訂日 2012年7月23日

化学物質等の名称 ヘリテージ (Heritage)

2 組成、成分情報

製品名：ヘリテージ
混合物：耐久性の高いアルキルシリケートとフッ素の重合によるフッ素シリコンを形成
特 性：高い浸透性により特殊な疎水基が基材奥深くまで形成される。
しかも透湿性を確保する。浸透性の高いフッ素シリコンオリゴマーが重合し防水層を形成する。さらに基材に凝集力を付与し下地強化を図る。
(表現としては撥水剤ではなく防水剤である。)

官報公示整理番号

成分名	化審法	安衛法通知対象物質
1. アルキルシリケート化合物	—	—
2. イソプロピルアルコール	—	—
3. エチレングリコールモノブチルエーテル	—	—

3 危険有害性の分類

分類の名称	・急性毒性物質 引火性液体 腐食性物質
危険性	・可燃性、引火性あり
有害性	・目、気道を刺激し神経系の働きを鈍くし「めいてい」に似た症状を現す。 高濃度の蒸気を吸入すると麻酔作用があり、意識低下を起こし、特に目にはいと角膜を浸し、視力障害を起こすことがある。
環境影響	・分解性が良好と判断される化学物質
物理的及び化学的危険性	・引火しやすい液体で、蒸気は空気と爆発性混合ガスをつくり、引火爆発の危険がある。 火災の熱で容器が爆発する事がある。揮発性物質で、屋内、屋外または下水溝中で火災爆発の危険性がある。
分類の名称:	引火性液体、急性毒性物質

4 応急措置

目に入った場合	・直ちに清浄な流水で15分以上洗浄した後、医師の診察を受ける。 洗浄の際には、まぶたを開いて眼球のすみずみまで水が行き渡るようにする。 ・寸秒でも早く洗眼を始め、入った物質を完全に洗い流す必要がある。 洗眼を始めるのが遅れると障害を増大させる恐れがある。
皮膚に付着した場合	・汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。多量の水または微温湯を流しながら洗浄する。必要に応じて石鹼などを用いて十分に洗い落とす。 ・その場で痛みなどの症状がなくても、障害が遅れて現れることがあるので、必ず医師の診察を受けること。

化学物質等の名称		ヘリテージ (Heritage)
吸入した場合		<ul style="list-style-type: none"> 被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、衣服、ネクタイ、ベルトなどをゆるめ、毛布などで保温して安静にする。直ちに医師の診察を受ける。 その間、呼吸が停止、あるいは弱い場合には、状況に応じて人工呼吸を行う。 嘔吐がある場合は、頭を横向きにして窒息に注意する。
飲み込んだ場合		<ul style="list-style-type: none"> 水でよく口の中を洗浄し、直ちに医師の診察を受ける。
5 火災時の措置		
消化剤	火災時の特定危険有害性	<ul style="list-style-type: none"> 粉末消化剤、水溶性液体用泡消化剤、二酸化炭素、砂、霧状水 火災時に刺激性若しくは有害なガスが発生するため、消化の際には煙を吸い込まないよう適切な保護具を着用する。
特定な消化方法		<ul style="list-style-type: none"> 火元への燃焼元を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火活動は、可能な限り風上から行う。消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をする。
消火を行う者の保護		<ul style="list-style-type: none"> 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。
6 漏出時の措置		
体に対する注意事項	環境に対する注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。こぼれた場所はすべりやすいために注意する。 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
除去方法		<ul style="list-style-type: none"> 乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。こぼした場所は、ウエス、雑巾等で拭き取る。
二次災害の防止策		<ul style="list-style-type: none"> 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。火花を発生しない安全な用具を使用する。
7 取扱い及び保管上の注意		
取扱い	技術的対策	<ul style="list-style-type: none"> 火気厳禁。高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに蒸気を発生させない。
	注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 使用後は容器を密閉する。 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。 指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。 休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。 取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
	安全取扱注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。 屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。 機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。 作業衣、作業靴は導電性のものを用いる。
保管	適切な保管条件	<ul style="list-style-type: none"> 容器は遮光し、換気のないなるべく涼しい場所に密閉して保管する。
	安全な容器包装材料	<ul style="list-style-type: none"> ガラス

化学物質等の名称 **ヘリテージ (Heritage)**

8 暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、発生源を密閉し、局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに、目の洗浄および身体洗浄のための設備を設置し、その場所を表示する。

機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。

管理濃度

許容濃度

- ・作業環境評価基準： 400ppm/25ppm
- ・日本産業衛生学会:400ppm (980g/m³) OSHA PEL:8H TWA 400ppm, 980mg/m³ air TWA 50ppm(skin), ACGIH TLV(s):TWA 50/200ppm, STEL 75(250ppm); Provisional value

設備対策

- ・作業者が直接暴露されないように、出来るだけ密閉化した設備又は局所排気装置を設ける。取扱場所の近くに洗顔及び身体洗浄用の設備を設ける。

保護具

呼吸器の保護具

- ・有機ガス用防毒マスク

手の保護具

- ・不浸透性保護手袋

目の保護具

- ・側板付き保護眼鏡 (必要によりゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具

- ・長袖作業衣

適切な衛生対策

- ・マスク等の吸着剤の交換は定期または使用の都度行う。
-

9 物理的及び化学的性質

形状

- ・液体

色

- ・無色透明又は淡黄色

臭い

- ・特異臭

pH

- ・データ無

沸点

- ・50~82℃

融点

- ・-88.5℃

引火点

- ・11.7℃(密閉式), 21.0℃(解放式)

発火点

- ・480℃

爆発限界

- ・2.02~11.8%(v/v)

蒸気圧

- ・58.7hPa (25℃)

蒸気密度

- ・2.07

比重

- ・0.75~0.95g/ml (20℃)

溶解度

- ・加水分解性あり

溶媒に対する溶解性

- ・水、アルコール、エーテル、アセトンその他ほとんどの有機溶剤と混和
オクタノール/水分配係数 log Po/w: データなし。
-

10 安定性及び反応性

安定性

- ・通常取り扱い条件においては安定

反応性

- ・加水分解性があるため湿気の混入に注意する

可燃性

- ・消防法危険物 第4類 第3石油類に該当

避けるべき条件

- ・日光、熱、裸火、高い温度、スパーク、静電気、その他発火源

危険有害な分解生成物

- ・一酸化炭素
-

11 有害性情報

急性毒性

- ・経口 ラット LD50: 5045mg/kg (RTECS)
- ・吸入 ラット LC50: 16000ppm/8H (RTECS)
- ・経口 マウス LD50: 3600mg/kg (RTECS)
- ・吸入 マウス LCLo: 12800ppm/3H (RTECS)
- ・腹腔 マウス LD50: 4477mg/kg (RTECS)

局所効果

- ・目刺激 ウサギ 5mg 中程度 (RTECS)
- ・皮膚刺激 ウサギ 500mg 軽度 (RTECS)

慢性毒性・長期毒性

- ・反復または長期間の皮膚との接触は皮膚炎を起こすことがある。
-

化学物質等の名称	ヘリテージ (Heritage)
変異原性 発がん性	<ul style="list-style-type: none"> ・データなし ・ OSHA, NIP, IARC グループ3 (ヒトに対する発がん性については分類できない)
12 環境影響情報	
残留性／分解性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分解度： 86 % by BOD (経産省既存化学物質安全性点検)
生体蓄積性	<ul style="list-style-type: none"> ・ データなし
生態毒性	
魚毒性	<ul style="list-style-type: none"> ・ データなし
13 廃棄上の注意	
焼却法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法律により許可された廃棄焼却炉などの安全な施設で焼却処理をする。消却の際はシリカ粉が発生する。
14 輸送上の注意	
国内	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消防法危険物 第4類 第3石油類に該当するため火気厳禁で取り扱う。
国外	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海上、航空輸送の場合には、下記項目を危険物明細書に記入し、船舶所有者および船長、航空会社および機長に提出する必要がある。
国連分類	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラス 3(引火性液体 P.G. 2)
国連番号	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1219(Isopropanol)
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸送前に容器の破損、腐しよく、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれの防止を確実にを行う。
15 適用法令	
消防法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危険物第4類 アルコール類 (水溶性) 危険等級2
毒物及び劇物取締法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非該当
労働安全衛生法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法57条 (令第18条) 名称等を表示すべき有害物 法第57条の2 (令第18条の2) 名称等を通知すべき有害物 No.492 令別表第一の4 危険物 引火性の物
有機溶剤中毒予防規則	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第二種有機溶剤 作業環境測定基準、作業環境評価基準
船舶安全法 (危規則)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中引火点引火性液体
航空法： 引火性液体	
海洋汚染防止法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施行令別表第1の2 有害でない物質
化学物質管理促進法	
PRTR法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非該当
16 その他の情報	
引用文献	<p>産業中毒便覧 後藤稔 他編 医歯薬出版(株)(1977) 米国 O S A H 危険有害性の周知基準－規則と危険有害性化学物質リスト－(第4版) (社)日本化学物質安全・情報センター(1989) 化学物質と救命救急医療の手引き－ I M O / W H O / I L O による M F A G の解説－成山堂書店(1990) 危険物防災救急要覧－化学物質の性状と取扱い－ 神戸海難防止研究会編 成山堂書店(1990) 通産省公報 平成5年12月28日 Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM (2003) 14303の化学商品 化学工業日報社 (2003) 危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので取り扱いには十分注意して下さい。</p>

化学物質等の名称 **ヘリテージ (Heritage)**

・このMSDSは、我々が知り得た情報を基に誠意をもって作成しておりますが、記載のデータや危険、有害性の評価に関してはいかなる保証もなすものではありません。ご使用に先立って、危険、有害性情報のみならず、ご使用になる機関、地域、国の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先してください。

ご購入いただいた商品は、安全性の点からも速やかに消費されることを大前提としております。その後、新たな情報や修正が加えられる場合もありますので、万一ご使用時期が大幅に、ずれ込んだり、ご懸念を抱かれた場合には、改めて弊社にご相談ください。また記載の注意事項は、通常のご取扱を対象としたものであって、特別な取扱をする場合は状況に適した安全対策を実施の上、十分な注意を払う必要があります。

すべての化学製品は『未知の危険性、有害性がある』という認識で扱うべきであり、その危険性、有害性も使用時の環境、扱い方、あるいは保管の状態、期間によって大きく異なります。ご使用時はもちろんのこと、開封から保管、廃棄に至るまで、専門的知識、経験のある方のみ、あるいはそれらの方々の指導のもとで取扱うことを警告します。

ご使用各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるよう、お願い申し上げます。